

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	3270400322		
法人名	社会福祉法人 ことぶき福祉会		
事業所名	グループホーム ことぶき園		
所在地	島根県出雲市塩冶有原町一丁目50番地 (電 話) 0853-23-1071		
評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	島根県松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成20年 1月10日	評価確定日	平成20年 1月31日

【情報提供票より】(H19年 12月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 9年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算	7.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(12月 25日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	1 名	要介護4	5 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	後藤内科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「障害をもっていても人は人間らしく笑顔で暮らす権利があり、住み慣れた家や地域で暮らし続けるための支援」と20年前にことぶき園を開始、通いに泊りも加わり小規模多機能の原点となった。平成9年にグループホームとなり、昨年3月全面改築し、新たに小規模多機能居宅介護を併設し再スタートした。近隣の人と気軽にふれあうホームの原型を残すため、同じ場所に建て替えたため、仮住まいを含め2度の引越があり入居者の動揺が心配されたが、長い年月を共にした人間関係は揺るぐことなく、重度化にもかかわらずより強くなった。最期をホームで看取る方針は当初からあり、本人のできることの継続と家族の参加を機会あるごとに働きかけ、共に笑顔で暮らし続ける支援をしている。長い経験・継続の重みがあるが、更に良くしたいと取り組む職員チームワークは強固である。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価時には、通所とグループホームを同じ場所で行っていたので共有空間が狭く、また、居室も簡易な間仕切りで利用者のプライバシーや落ち着ける空間など要改善であったが、長年の懸案であった建て替えにより課題は解消された。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全員で行い話し合った。勤務1年目の職員からいろんな質問を出してもらい、先輩職員、管理者がその質問について答える形で、誰もが基本に立ち返って点検を行い、自己評価の意義を再確認した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>現在3月に一回の頻度で併設の小規模多機能ホームと合同で開催している。市職員、地域包括支援センター職員、地域住民代表、利用者家族、理事長、所長が参加し、情報・意見交換から始め、認知症ケアの勉強の機会にもなっている。回を重ねる毎にホームへの理解が深まっている。会議の報告は掲示し周知している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会があり、年2回行事を一緒にしたり、意見をまとめるなどして、運営に反映させている。家族の訪問時に意見や質問が出しやすい雰囲気作り等配慮していて、話から得た意見はすぐに報告し職員間で話し合い、問題の解決をしている。外部への相談や苦情の窓口も周知している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会へは加入していないが、近隣とは20年の歴史があり、公園や溝の清掃、古紙集荷場所の提供等を通じて声を掛け合う付き合いになっている。棟上げの時には、町内会長に祝餅をまいってもらった。美容院や焼き肉屋等とも長い付き合いがある。以前、地域向けに広報紙を発行していたが、現在は休刊している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「障害をもっても人は人間らしく笑顔で暮らす権利がある」をメインテーマに8項目のケア方針をつくり、『住み慣れた家や地域で暮らし続けるために一地域密着・小規模・多機能・の福祉をめざして一』法人全体では20年前から取り組んでいる。ホーム独自の理念はないが、併設している他の事業と一体に運営をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の申し送り、職員会議や基礎的な研修等でケアテーマ、ケア方針の実践を確認しながら、理念を学びあうようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へは加入していないが、近隣とは20年の歴史があり、公園や溝の清掃、古紙集荷場所の提供等を通じて声を掛け合う付き合いになっている。棟上げの時には、町内会長に祝餅をまいてもらった。美容院や焼き肉屋等とも長い付き合いがある。以前、地域向けに広報紙を発行していたが、現在は休刊している。	○	20年の長い付き合いでホームの存在はよく知られているが、近隣者の世代交代や変動もあり、小規模多機能ホームの開始やホームの活動内容を知ってもらうために、地域向けの広報紙の発刊再開等を検討してほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で行い話し合った。勤務1年目の職員からいろんな質問を出してもらい、先輩職員、管理者がその質問について答える形で、誰もが基本に立ち返って点検を行い、自己評価の意義を再確認した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3月に一回、併設の小規模多機能ホームと合同開催している。市職員、地域包括支援センター、地域住民、利用者家族、理事長、施設長が参加し、情報・意見交換、認知症ケアの勉強の機会にもなっている。回を重ねる毎にホームへの理解が深まっている。会議の報告は掲示して周知している。利用者の参加はまだない。	○	毎回は困難としても、会議内容に応じて利用者の参加や議題の広がりも検討して、ホームの運営につながる会議にさらに発展させてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	建て替えを機に市との接触頻度は高くなり、グループホームのありかた等についても積極的に話し合いができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料請求に併せ「ことぶき新報」とホームでの写真を2, 3枚添えて家族へ届けている。ホームだけの生活にならないように家族の協力を働きかけ、帰宅や短時間の立ち寄り、墓参の同行等、共に家、地域での生活が継続できるように支援している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、年2回行事を一緒にしたり、意見をまとめるなどして、運営に反映させている。家族の来訪時に意見や質問が出しやすい雰囲気作り等配慮していて、話から得た意見はすぐに報告し職員間で話し合い、問題の解決をしている。外部への相談や苦情の窓口も周知している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開始の1997年から今日まで、法人代表、管理者は変更なく、職員は部署異動を含め12人が交代をしているが、全体として勤務年数は長い。新任職員へは先輩職員が指導・支援を行い、利用者へのダメージがないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は現場に入り、適時に職員の指導をしている。新任職員へは一定期間勤務後にレポート提出を求め、それに基づき個々に応じた研修を選択している。相手の立場に立って考えることができる人材を育てようと感性を磨ける研修を選び派遣している。法人全体としても定期的に研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会やしまね小規模ケア連絡会の研修等に職員が交替で参加し事例の発表もしている。また、研修の企画など積極的に取り組んでいる。参加者は、研修レポートの提出と職員会で報告し職員全員でサービスの質向上につなげている。また、他の事業所からの要望に応え、職員の現場実習も受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの入居者のほとんどは、通所介護や小規模多機能ホームの利用から継続しているため、職員とは顔馴染みであるが、不安のないように家族とも相談をしながらのサービス利用としている。初めての利用の場合は、事前の訪問や見学してもらい納得をえて、信頼関係を築くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	先輩者である入居者から学ぶ姿勢を持っている。世話をしている、受けているという上下の位置でなく、入居者が素のままでも過ごせるのが一番とし、お互いが対等に構えないで居られる関係、支えあう関係づくりを意識して、その実践に努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	通所介護からの長い係わりの中で、日常的な言葉の調子やつぶやき、表情、体調などから利用者の思いを感じとれるようになっており、それに応じての支援をしている。生活場面から把握した本人の性格や価値観などは記録され、個人別のファイルに綴じられている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	通所介護など利用開始からの本人のアセスメント情報や生活の様子の記録を基にし、重介護になった利用者についてもできることを見つけ出し、その人らしい生活が続けられるように毎月のケース検討会で話し合うと伴に、家族の意見も聞きながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の見直しを原則としているが、日々の小さな変化や本人の思いに基づいた見直しを行い、計画に縛られないで臨機応変に対応している。大きな状態の変化があれば関係者と話し合っ計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況により、かかりつけ医への通院や美容院などの送迎支援を柔軟に行っている。また、家族との関わりを大切にしており自宅や墓参など本人の体調をみながら行っている。医療連携体制があり、3人の看護師が中心となり細やかな支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医への受診が継続できるよう支援している。ホームの状況に理解を得て、体調の変化時には往診もしてもらえる関係をつくり、適切な医療が受けられる体制にしている。家族が付き添う時はメモを渡し、状況によって看護師も同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制があり、重度化や終末期への対応方針を定めている。家族の意向を聞き「看取りに関する確認書」を交わしている。具体的に検討を必要とする時期になれば、家族やかかりつけ医、協力医療機関と話し合いを行い、その方針を全職員で確認し共有化している。状況により家族に居室への泊りも提案している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に個人情報開示の同意を得ている。人権尊重はケアの基本とし、日常的に繰り返している。特に言葉づかいは、お互いに注意している。記録は相談室で行い、個人情報を管理している。入浴なども男性職員を配置し、同性介護を原則としている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活スタイルや1日のリズムを尊重し「その人なりの生活」が継続できるように支援している。併設の通所介護、小規模多機能の利用者と一緒に過ごしたり、知人に会いに出かける人もあり、また急に外出を思い立った場合にも、できるだけ対応するようにしている。	○	自分の配置ポジションに拘らず、ことぶき園の利用者すべての生活スタイルやリズムを個別に理解し、更に細やかに対応できるよう、職員間の話し合いを通じて情報交換が深められることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	小規模多機能ホームの台所で長年ボランティアグループが主な賄いを行い、ホームでは盛り付けや食器洗い等、入居者のできることを行っている。月に3回は好みのメニューを聞き皆で食事を作っている。食事場所は、他の食堂の利用も自由にできるようにしている。職員は介助や見守りをしながら共に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	改築後は、ことぶき園全体の利用人数が多くなり、調理と入浴は3つの事業所が共同で行うようになった。また、長期の入居者が多く重度化してきたため、二人で入浴介助を必要とする人もあり、以前実施していた夜間入浴は、現在行われていない。	○	就寝前に入浴の意義を職員は大切にしたいと、夜間入浴の再開を検討している。重度化する入居者への対応は困難も多いが、本人の希望や状態に合わせて対応できる体制を実現してほしい。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	単独でできることは少なくなっているが、じゃが芋の皮むき、食器洗い、抹茶、歌等の特技の継続、ボールゲームに集中したり、畑仕事を得意とした人には車いすから監督してもらうなど喜び、楽しみにつながるよう支援している。シーツ交換、部屋の掃除などもわずかでも参加することで役割を継続させている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	急な外出希望に即応できないこともあるが、できるだけ外出しての外気・日光浴や美容院や買い物、近くに借りている畑の観察などを行っている。訪問した日も神西湖へ趣味のバードウォッチングに出かけていた人もいた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ケアの方針として「普通の暮らしを追及」「管理をしない」「自己決定、拒否権の保障」を徹底するよう努めている。日中は居室、玄関共に鍵はかけていない。一人で外出する人もいるが、近隣の理解と協力を得て、連絡してもらえる体制もできている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者は防火管理者の資格を得ている。平屋から2階建ての建物になり、避難経路や方法について改めて防災避難計画作りとなった。先般、消防署の協力を得て避難訓練をおこなった。地域からの支援を受けられるよう日頃からの付き合いを大事にしているが、具体的な応援体制はまだできていない。	○	新しい建物になったので、避難訓練を意識的に積み重ね旧来の防災避難感覚から脱するとともに、災害時の用品や備蓄も検討するとともに、近隣への協力支援についても、町内会役員等を招き運営推進会議の議題として提案して、新たな協力関係を築いてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ボランティアによる調理を継続し、個々の状態に応じて刻んだり握りやすいスプーン等の用意をしている。摂取量や体調は申し送りで伝え健診結果も参考に栄養状況を把握している。季節の野菜を多くし、貰い物も利用している。間食を夜間にも取り入れ、1日を通して無理なく水分摂取ができるように工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小規模との境に中庭があり、透明ガラスや天窓で屋外が見え、穏やかな陽が入るようにしている。床暖房で、冬も靴下で歩ける。3つの事業毎の間仕切りは開放され、利用者はどの空間も使えるようにしている。古い箆笥や花で生活感や季節感のある空間作りをしている。小規模多機能の食堂・居間の道路側に木製テラスがあり、通りががりの人と声掛け合う原型を残している。建て替えによりトイレ、浴室とも家庭的な造りになり、車椅子の介助に適したスペースも確保されている。	○	新築して間がないので、生活の匂いのする空間づくりは始まったばかりである。入居者と共に時間をかけてつくることになるが、どのような雰囲気になるか期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室・洋室ともにバリアフリーである。入居者に応じてベットやダンス等の調度品は工夫され、家族の写真や好きな小物が並び電話をつけた人もあり、一人ひとりの部屋づくりをしている。個室になり家族と部屋で過ごすこともできる。自室の認知ができない人もいるが、入口の暖簾の色や長短で判る工夫をし、あえて表札は付けていない。		